

6.雲古のはなし

どこの会社でも、その社員にしか分からない「言葉」があり業界用語とか隠語と呼ばれています。

あるデパートでは、「桜さん、桜さん5階でお連れ様がお待ちです」とアナウンスされると、5階で万引きが発生したので警備員集合の合図とも言われています。「桜」は警視庁のマークのため引っ掛けて呼ぶらしい。日常でも、すし屋のお茶は「あがり」で、しょう油は「むらさき」も隠語のひとつでしょう。

私が勤めていた会社も、「T職」は取締役、「ちょつき」は会社に寄らず帰宅する按配で、隠語の連続で始めは何を喋っているのか分からなかったほどです。

前置きがだいぶ長くなりましたが、以前にある陶器メーカーの方の話を聞いたことがあります。

どこのマンションの住戸にも快適に使用できる洋式便器がありますが、実は便器をつくるにも大変な苦勞があるらしいのです。

ウ○コの大きさや、水分が含んだ場合の重さや形などは、それぞれの人や食事により違うため、調べて平均を求めたりするには奮闘ならぬ「糞闘」の連続であるのです。

調査・研究によって便器の形状や流す水の量などを決めることになるそうです。ところで、この会社では社内文書には「ウ○コ」とは決して書かず、「雲古」がつかわれており、何となくスマートな感じがするものです。

最近のマンションも、節水型や洗浄式のトイレは当たり前になっているようですが、こうした陶器メーカーの皆さんの努力により、今日も快適に「雲古」ができるわけです。